



静岡市

津波ハザードマップ

Shizuoka City TSUNAMI HAZARD MAP

中島・大里東・宮竹・大谷・久能 地区



静岡県は、令和5年3月に静岡市の津波浸水想定区域と同じ範囲を津波災害警戒区域に指定するとともに、基準水位を公表しました。これに伴い静岡市では、基準水位を掲載した津波ハザードマップを作成しました。基準水位の表示により津波から避難する際に安全な高さが明確になり、より効率的な津波避難対策が可能になります。また、津波に関する知識や避難時の心得などをまとめているので災害時の適切な避難行動に繋がるようご活用ください。

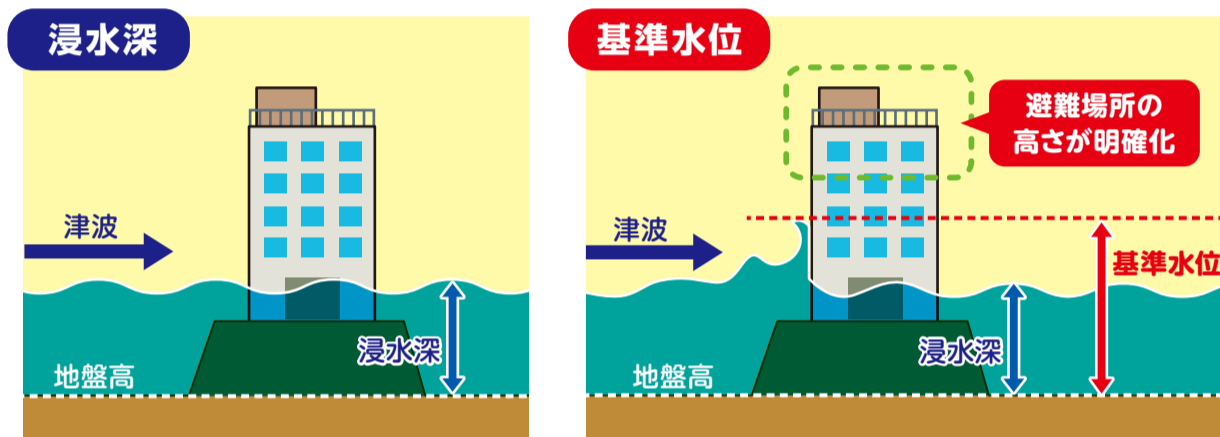
問い合わせ先 >> 静岡市 危機管理総室 TEL:054-221-1241 令和5年9月

津波ハザードマップの使い方

- 1 家の位置を確認しましょう**
あなたの家の場所をマップに書き込みましょう。
- 2 家の周りの災害の危険性を確認しましょう**
あなたの家が津波の浸水が想定されている区域かを確認しましょう。
- 3 避難先を確認しましょう**
最寄りの避難先や次に近い避難先がどこにあるか確認しましょう。
- 4 避難経路を考えてみましょう**
危険な箇所や狭い道路を避け、安全な避難経路を確認しましょう。
- 5 実際に避難先まで歩いてみましょう**
地図で選択した避難経路が安全かどうか、他の経路が無いか、実際に歩いて確認しましょう。
- 6 災害や避難について、話し合ってみましょう**
あなたの家や家族の職場、よく行く場所などの避難行動や危険性を話し合っておきましょう。

浸水深 基準水位 津波災害警戒区域

「浸水深」とは、津波により浸水が想定された場所の地面から水面までの高さです。「基準水位」とは、浸水深に津波が建物等に衝突した際のせり上がり高を加えた水位です。静岡市津波ハザードマップでは「基準水位」を掲載しています。「津波災害警戒区域」とは、最大クラスの津波が発生した場合、人的被害が生ずるおそれがある区域であり、浸水想定区域の範囲と同じです。



災害を知る — 津波

津波とは

津波は、地震による海底地盤の隆起や沈下などによって、海水が上下に変動することで引き起こされます。強風によって海面付近の海水が動くことで引き起こされる波浪とは違い、海底から海面までの海水全体が動くため、その威力は非常に強く、甚大な被害へとつながる可能性があります。



注意すべき津波の特徴

- 津波の伝わる速さと高さ**
津波は、水深が深いほど速く伝わり、浅くなるほど波高が高くなります。
- 引き波がなくても津波は来る**
津波は引き波から始まるといわれることが多くありますが、地震の起こり方や震源地付近の地形によっては引き波が起こらない場合もあります。
- 2波、3波と繰り返す**
津波は繰り返し襲ってきます。必ずしも第1波が最大であるとは限りません。
- 津波の高さは想像以上**
津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。湾やV字型の湾などは特に高くなる傾向があります。
- 河川からの通上(逆流)**
津波は河口から侵入し、何kmも上流へ通上(逆流)することがあります。通上した津波が、河川の堤防を越え川沿いの地域に大きな被害をもたらすことがあります。
- 津波の高さ**
「津波の高さ」とは、平常潮位(津波がない場合の潮位)から、津波によって海面が上昇した高さのことを言います。

津波避難 — タイムライン

津波災害の要因となる地震発生から避難までの行動のポイントを時系列にタイムラインとしてまとめました。いつ・どのタイミングでどのような行動をとったら良いか確認しましょう。

行動のポイント

地震発生

発生から0分

- 身の安全を確保しましょう！
強い揺れや長い揺れを感じたときは、すぐに身を守る行動をとりましょう。
- まず低く、頭を守り、動かない

発生から~3分

- 落ち着いて状況を把握しましょう！
- 警報等の発表を待たずにすぐに避難する。
- 避難の際は、ガラスや瓦などの落下物に注意する。
- 海へ様子を見に行くことはしない。(津波が見えてからでは逃げられません。)
- 海岸や河川からできるだけ離れる。
- より早く、高く、遠くへ避難する。

発生から3分~

- より安全な場所へ避難しましょう！
- 津波災害警戒区域の外への避難を最優先する。
- やむを得ず建物に避難する場合は、津波避難ビル等の頑丈な建物の上階へ避難する。
- 安否確認より自分の避難を優先する。

津波避難訓練に参加しましょう

静岡県は、東日本大震災が発生した3月11日を含む10日間を、津波対策推進期間と定めています。静岡市では、この期間に啓発活動や訓練を実施しています。対象地域にお住まいの方は、津波避難訓練にご参加ください。

事前に確認しておこう

避難所等

名称	住所	電話番号
指定避難所		()
津波緊急避難場所等		()
家族の集合場所		(LINE)

家族の連絡先

名前	勤務先・学校	住所	電話番号	避難先
			()	
			()	
			()	
			()	

非常時の連絡先(親戚・友人の家への避難を検討しましょう)

名前	住所	電話番号	家族との関係
		()	
		()	
		()	

非常持出品(参考)

- 貴重品**
 - 身分証明書
 - 健康保険証
 - 印鑑
 - 通帳
 - 現金(小銭を用意)
- 水・食料など**
 - 飲料水
 - 非常食
- 小物道具類**
 - 懐中電灯
 - 携帯ラジオ・防災ラジオ
 - 乾電池
 - 携帯電話、充電器
- 衛生用品など**
 - マスク
 - 消毒液
 - 絆創膏
 - 体温計
 - 歯ブラシ
 - タオル
 - 軍手
 - 下着・上着などの着替え
 - 雨具、防寒着
 - スリッパ
 - レジャーシート
 - 万能ナイフ
- 必要な人は**
 - 処方薬・常備薬
 - お薬手帳
 - 衛生用品・生理用品
 - おむつ・離乳食・乳児用ミルク
 - 入れ歯・コンタクトレンズ・眼鏡
- その他**
 - プラスチックコップ・紙皿
 - スプーン・箸
 - ティッシュ
 - ウェットティッシュ

情報収集

津波や地震の際は、テレビやラジオ、インターネットなどから正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。

情報収集

気象庁発表
 ① 緊急地震速報(震度4以上)
 ② 大津波警報
 ③ 津波警報
 ④ 津波注意報
 静岡市発表
 ① 避難情報

同報無線
 ① 携帯電話への緊急速報メール
 ② 静岡市公式LINE
 ③ 静岡市防災メール

自分で情報を入手するよう心がけましょう

テレビ、ラジオ、インターネット

同報無線の内容は TEL:054-269-5656 で確認できます。

緊急速報メール
静岡市内にいる方々の携帯電話(NTTドコモ、KDDI、ソフトバンク、楽天モバイル)に緊急情報を一斉配信します。回線混雑の影響を受けずに受信することができるサービスです。機種によって、事前に受信設定が必要な場合があります。

- インターネット**
- 静岡市防災情報ポータル**
静岡市の防災に関する各種情報を、提供しているポータルサイトです。
https://portal.bosai.city.shizuoka.jp/
 - 静岡市公式LINE**
友だち追加をされた利用者に静岡市の様々な情報をダイレクト且つ確実にお伝えします。
 - 静岡市防災メール**
地震関連情報、気象関連情報等の防災情報を携帯電話等に配信します。受信を希望される携帯電話番号から、下記アドレスへメール(メールアドレス、本文等是不変です。)を送信してください。登録アドレス: sizenry@tokyansai.sbs-infosys.com
 - 静岡県総合防災アプリ**
災害情報の通知をはじめ、ハザードマップの確認、防災知識の習得や避難トレーニングなど、役立つ機能を幅広く備えています。
https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/application.html
- 静岡県土木総合防災情報サイポスリーダー**
静岡県内の河川の水位、雨量、防災、気象情報などが確認できます。
▶PC: http://sipos.pref.shizuoka.jp/ ▶スマートフォン: http://sipos.pref.shizuoka.jp/smartphone/
- 静岡地方気象台**
静岡県で発表中の注意報・警報、大雨警報(土砂災害・浸水害)の危険度分布、気象情報や天気予報などが確認できます。
https://www.jma-net.go.jp/shizuoka/
- 中部電力停電情報**
静岡市内で発生している停電情報が確認できます。
https://teiden.powergrid.chuden.co.jp/stzuoka.html
- 国土交通省防災ポータル**
リアルタイム情報や速報等により、災害発生後、いち早く被害の状況を見ることができます。
https://www.mlit.go.jp/river/bousai/olympic/helpku01/index.html

災害用伝言ダイヤル(171) 災害時の安否確認には、災害用伝言ダイヤル171を使いましょう。

忘れた「171」で覚えよう!

伝言の録音 171 1 相手の電話番号 伝言を入れる(30秒以内)

伝言の再生 171 2 相手の電話番号 伝言を聞く

静岡市で公表されている防災情報・ハザードマップ等
静岡市では、防災情報マップとして、静岡市内における地震、風水害等の災害による被害の想定や津波避難ビル、避難所等の避難に関する情報をインターネットにより、市民の皆さんに公開しています。

津波警報・注意報の種類と取るべき行動

津波による災害の発生が予想される場合、気象庁は警報・注意報を発表します。津波は沿岸の地形等の影響により、予想より高くなる場合があります。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表(津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超(10m<予想高さ) 10m(5m<予想高さ≤10m) 5m(3m<予想高さ≤5m)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m(1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m(0.2m≤予想高さ≤1m)(表記しない)		海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がつて、海岸から離れてください。

※地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震に対しては、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、その海域における最大津波想定等をもとに津波警報・注意報を発表します。その場合、最初に発表する大津波警報や津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」という言葉で発表して、非常事態であることを伝えます。

《南海トラフ地震臨時情報》
「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ沿いで異常な現象を観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報です。情報名の後にキーワードが追記されたものが「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で発表されます。政府や静岡市から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。

《南海トラフ地震臨時情報》

「南海トラフ地震臨時情報」は、南海トラフ沿いで異常な現象を観測された場合や地震発生の可能性が相対的に高まっていると評価された場合等に、気象庁から発表される情報です。

情報名の後にキーワードが追記されたものが「南海トラフ地震臨時情報(調査中)」等の形で発表されます。政府や静岡市から、キーワードに応じた防災対応が呼びかけられますので、呼びかけの内容に応じた防災対応をとってください。

！南海トラフ地震臨時情報が発表されたら！(内閣府)

！南海トラフ地震臨時情報発表時における静岡市の対応

津波避難 — 心得

- 気づいたらすぐ避難!**
- このような場合には、すぐに避難を開始しましょう。
- 強い揺れ(震度4程度以上)を感じたとき
 - 長い時間ゆっくりとした揺れを感じたとき
- 震度4の揺れとは
電灯などの吊り下げ物は大きく揺れる
ほとんどの人が驚く
座りの悪い置物が倒れることがある
- より早く、高く、遠くへ!**
- 津波災害は避難することで命を守ることができる災害です**
津波の浸水深が30cm程度でも流れが速いと足をとられてしまいます。津波から避難するときは、想定にとらわれず、可能な限りより早く、より高く、より遠くへ逃げましょう。声を掛け合いながら、率先して避難することが大切です。
 - 避難はなるべく徒歩で**
車での避難は、地震による道路の損傷、建物の倒壊などの影響を受けるほか、渋滞により身動きが取れなくなるなど避難が遅れてしまう危険性があります。また、他の徒歩避難者の円滑かつ安全な避難の妨げとなります。
 - 海岸や川のそばには近づかない**
地震の起こり方や地形によっては引き波がなくても津波が到達することがあります。また、津波は川を上流にも押し寄せることがあります。海岸や川のそばにいるときは、一刻も早く避難し、津波警報や津波注意報が解除されるまで絶対に近づかないようにしましょう。

避難三原則

- 避難三原則とは、東京大学大学院の片田教授が提唱する、災害から避難する際の三つの心得です。東日本大震災では、この三原則を防災教育に取り入れていた児童・生徒の多くが無事であった事例が話題となりました。
- 原則1 《想定にとらわれるな!》**
予想以上の災害が起こる可能性があります。「ここまで津波がない」という想定にとらわれず、避難行動をとりましょう。
 - 原則2 《最善を尽くせ!》**
ここまでくれば大丈夫ではなく、その時にできる最善の対応行動をとりましょう。
 - 原則3 《率先避難者たれ!》**
いざというときは、まず自分が率先して避難しましょう。率先して避難する姿を見て、他の人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことにつながります。